

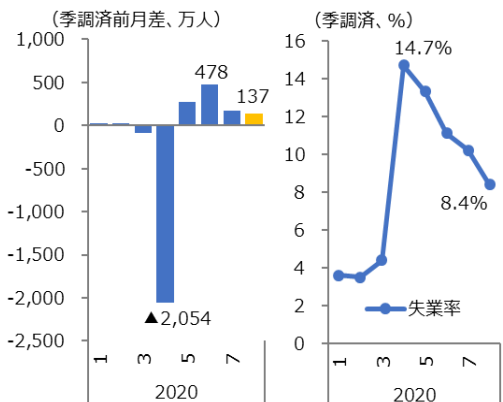
米国

雇用統計 (2020年8月)

雇用は予想以上の改善も、今後の回復に油断は禁物

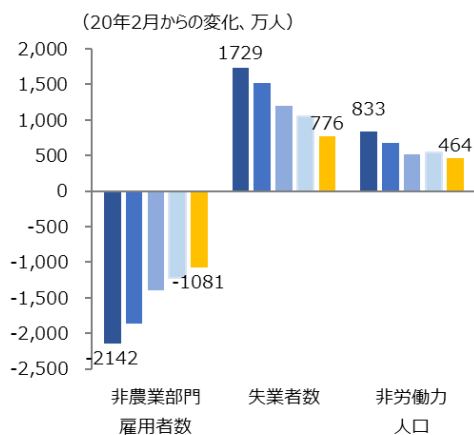
政策・経済研究センター  
田中高大  
03-6858-2717

1 非農業部門雇用者数と失業率



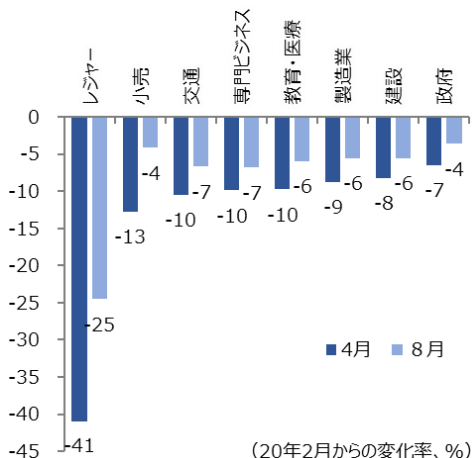
出所：米国労働省

2 雇用者、失業者、非労働力人口



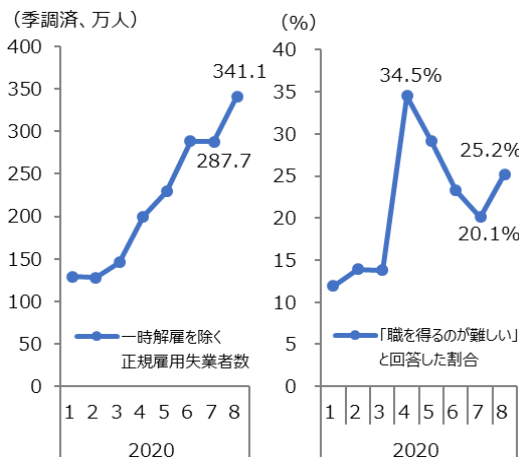
出所：米国労働省

3 産業別の雇用者数変化率



注：雇用者数の多い主要業種のみピックアップ。  
出所：米国労働省より三菱総合研究所作成

4 恒久的失業者数と就職の困難さ



出所：米国労働省

出所：Conference Board

評価ポイント

今回の結果

- 2020年8月の非農業部門雇用者数は、前月差+137万人の増加となり、増加幅は7月の+176万人からさらに鈍化した。なお、この増加分には、政府部門における国勢調査のための臨時雇用（23.8万人）が含まれている。
- 失業率（失業者数/労働力人口）は8.4%と、前月（10.2%）から1.8%ポイントの改善となり、3月以来の一桁台となった（図表1）。市場予想は9.8%であったことから、予想以上の改善といえる。失業者数・非労働力人口も前月より減少したものの、新型コロナ前（2月）と比較すると、失業者数は776万人増加しているほか、非労働力人口も464万人増加している（図表2）。就業意欲のある非労働力人口などを含む広義の失業率（U6）は14.2%と、依然高止まりしている。
- 産業別の雇用者数を見ると、小売を中心に多くの産業で回復が続いているものの、依然新型コロナ前（2月）を下回っており、レジャーは▲25%と相変わらず突出して悪い状態だ（図表3）。

基調判断と今後の流れ

- 米国の雇用環境は予想以上に改善したものの、回復ペースは鈍く、新型コロナ前に比べ悪化している状態に変わりはない。また、回復の持続性も油断は禁物だ。恒久的な失業者は前月比+50万人以上増加しており、経営が悪化した企業では一時的な解雇から恒久的な解雇への切り替えが進んでいる模様だ。また、コンファレンスボードの8月調査では「職を得るのが難しい」と回答した消費者が25.2%と、前月（20.1%）から大きく上昇しており（図表4）、今後の雇用改善余地は少ない可能性がある。
- 先行きのリスクとしては、①新型コロナ感染拡大の長期化、②追加経済対策の行き詰まりがあげられる。失業給付特例の延長をめぐっては、議会で合意に至らず、7月末で一度失効した。8月上旬に上乗せ額を減額したうえで延長する大統領令が出されたが、開始時期が州ごとに異なるなど不透明な部分も多い。給付上乗せは復職意欲を失わせるとの指摘もあるが、新規失業保険申請件数は週100万件前後と高止まりしており、景気下支えのために早急な実行が望まれる。また、連邦・州政府ともに財政余力は減少しているうえ、大統領選が近づく中、今後有効な経済対策を行えるか注意が必要だ。